

都市部在住高齢者の外出特性と外出を支援する都市環境に関する考察

○橋本美芽¹⁾ 石橋 裕¹⁾ 長野博一²⁾

1) 首都大学東京健康福祉学部 2) 荒川区都市整備部都市計画課

キーワード：高齢者 外出行動 バリアフリー

【目的】東京都荒川区では、都市の計画的なバリアフリー化を目指し、区内に主要駅な公共交通機関を中心に重点整備地区を4地区指定し、地区ごとに基本構想を検討している。本研究は、基本構想策定の基礎資料として、高齢者の外出行動の特徴と、外出を促進する都市環境に求められる条件・要望等の把握を目的としている。

【方法】重点整備地区1地区を対象として、荒川区と共同で郵送調査を実施した。調査期間は、平成23年1月22日から2月15日。対象者は、重点整備地区内に居住する65歳以上の全高齢者5135名とした。なお、重点整備地区は拠点駅を中心に概ね半径500メートルの範囲で平坦な地域であり、店舗、銀行、文化施設等が比較的充実しており、外出環境としては、比較的利便性の高い地域である。

【結果】返送数は1891通(36.8%)であった。介護保険認定者、入院、入所、等を除外し、分析対象者は1535名であった。外出頻度が極端に低下した閉じこもり高齢者は12.7%であった。外出頻度低下者の特徴としては、関節疾患を有し、外出時に杖を使用する割合が高いことが示され、長距離歩行の耐久性の低下が把握された。住宅では、エレベータ付き住宅の重要性が示された。外出に関する不安の理由としては、目的地までの距離、休憩場所の不足、荷物の持ち運び等が挙げられた。都市環境への要望としては、ベンチの設置やトイレに関する要望が多く、休憩場所の配置や、高齢者に使いやすいトイレの整備などが外出環境の整備に求められ、高齢者の外出行動の改善に必要であることが示された。